

児童生徒の学習状況についての実態及び学力調査の結果等を踏まえた内容別・観点別の分析表（様式2）5年

学校番号 5 4 大泉西小学校

① 学習状況についての実態

- ・児童質問紙の調査結果から学校以外で学習する時間が1時間未満の児童が70.5%いた。(塾や習い事を除く)そのことから自立して学習することができていないと捉えられ、自主学習ノートの活用と家庭や学校からの課題の出し方などに改善の余地があると考えられる。
- ・毎日の読書時間は30分未満の児童が52.4%であった。(不明や未回答が3.3%)
- ・社会の出来事について家族と話す児童が41.0%であった。(不明や未回答が4.9%)
- ・朝食を毎日必ず食べる、たいてい食べるが93.5%である。
- ・学校のきまりは大切であると考えている95.1%、きまりを守っている83.6%。
- ・家族の人と学校の出来事について話す児童は78.7%以上であり、基本的な生活習慣は身に付いている児童は多いと考えられる。一方で、毎日の読書時間が短いことや家庭の中で社会について話す経験が少ないことから家庭生活の中で新たな知的好奇心が発達しにくい実態であると考えられる。

② 都の学力調査（正答率）と学校の結果分析

(国語) 「話す・聞く」5.2%、「書く」2.6%、「言語」2.3%、「読む」0.8%下回った。

(社会) 「思考・判断・表現」7.4%、「技能」6.9%、「知識・理解」9.9%下回った。

(理科) 「思考・判断・表現」0.1%、「技能」2.7%、「知識・理解」4.6%下回った。

(算数) 「思考・判断・表現」12.0%、「技能」4.9%、「知識・理解」5.0%下回った。

③ 内容別・観点別の分析

教科	内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・「文学的な文章」の正答率が36.1%と低く、物語の表現の効果を考えたり、人物像について想像したりすることができていない。 ・「情報の収集」の伝えたいことを分類したり関連付けたりすることができていない。 ・「言葉」の正答率が32.8%と低く文章の構成やその特徴について理解ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話す能力・聞く能力」は都正答率より5.2%低い。分かりやすく伝えるために資料を活用するなどして自分の考えを広げたりまとめたりすることができていない。考えが相違するときの話し合いの工夫が理解できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて相手に聞き返したり、補足説明を加えたりして主体的な聞き方を指導する。 ・互いの共通点や相違点に着目して整理するなどして、自分の考えをまとめる時間を充実させる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・「小数の除法」の正答率が39.3%41.0%と低く、計算の仕方やその意味を理解できていない。 ・「四角形の性質」の正答率が27.9%、「円について」の正答率が34.4%、「角の大きさ」の正答率が32.8%と、図形の性質や構成する要素の理解ができていない。 ・「データの活用」の正答率が31.1%、24.5%と低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「思考・判断・表現」は都正答率より12.0%低い。問題場면을的確に捉えたり、式を読み取ったりすることができていない。 ・「技能」は都正答率より4.9%低い。 ・「知識・理解」は都正答率より5.0%低い。特に、「B 図形」の領域での理解できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図と表と式とを相互に関連させて、数量の関係を捉えさせる必要がある。 ・小数の乗法、除法の正しい計算の仕方の意味理解ができるように、計算の仕方を筋道立てて説明させるなどをする必要がある。 ・数や図形についての感覚を豊かにする必要がある。

理科	<ul style="list-style-type: none"> ・「金属」、「電流」の正答率が32.8%と低く、金属の性質について理解できていない。電流の大きさの変化や向きについて理解できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「知識・理解」は都正答率より4.6%低い。電流についての既習事項を用いて自然事象と日常生活との関連ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図るために、学習した内容を別の場面や生活場面に当てはめて考えさせる。また、科学的な考えや概念を使用して考えたり説明したりする学習を充実させる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・公民的分野では、図を読み取る問題の正答率が36.1%、37.7%と低い。また、複数の資料から必要な情報を捉える問題でも41.0%と低い。 ・地理的分野では、都道府県名の正答率が34.4%と低く、定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「思考・判断・表現」は都正答率より7.4%低い。社会的事象の特色や相互の関連を捉える力が低い。「技能」は都正答率より6.9%低い。調査活動や具体的資料を通して読み取り、まとめる力が弱い。「知識・理解」は9.9%都正答率よりと大きく下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の資料を比較・分類したり総合したりして、児童が自ら課題に気付くとともに、その解決に向けて考えたり、表現したりする学習活動を充実させる必要がある。 ・都道府県や市区町村の位置についての知識を定着させるために、社会科の授業のみでなく、他教科でも地図帳（地図）や資料の活用場面を多くもつ必要がある。